

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01329

研究課題名(和文) アルペン・アドリア地域を範例とする境界化の権力に対する住民の戦略的実践の研究

研究課題名(英文) Study on the local residents' strategy against 'bordering' power in the case of 19-20th century Alpine-Adriatic region

研究代表者

小田原 琳 (Odawara, Rin)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：70466910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀末から20世紀半ばにかけて激しい境界変動を被った歴史的境界地域であるアルペン・アドリア地域における、「境界化」の権力に対する地域住民の主体的・戦略的実践について多角的に検討することを目的とした本研究では、20世紀初頭を中核とする前後の時期の境界化の運動の歴史的経緯、当該時期の境界化が、この地域の人々の移動の活発化・恒常化、当該地域における現代的課題や、当該地域の住民の実践のトランスナショナルな影響などを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アルペン・アドリア地域の激しい境界変動と、それに対する住民の生存戦略を、「境界化」の権力という視角から検討することを目的とし、当初は近代国家形成と戦争によって実際に境界画定が生じた19世紀末から20世紀半ばを対象としていた。しかし、研究の進展にともなって、今日、当該地域において生じている、戦争の記憶をめぐる衝突や、それ自体はまったく新しい現象であるEU域外からの移民に対する政策や態度などのなかに歴史的な経験が反映されていることが明らかになった。これにより、境界化の権力を通じた境界の強化が今日の課題であることを確認することができたのは、学術的かつ社会的意義をもつ成果であった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine from multiple angles the subjective and strategic practices of local residents against the "bordering" power in the Alpine-Adriatic region, a historical border region that underwent drastic border changes from the late 19th century to the mid-20th century. It was able to clarify the historical background of various bordering movements around the beginning of the 20th century, how bordering during this period led to the increased and constant movement of people within and outside of the region, contemporary issues in the region, and the transnational influence of the practices of the region's residents.

研究分野：歴史学

キーワード：西洋史 境界地域 記憶

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、19世紀末から20世紀半ばにかけて激しい境界変動を被った歴史的境界地域であるアルペン・アドリア地域における、「境界化」の権力に対する地域住民の主体的・戦略的実践について多角的に検討することを目的として構想された。

研究開始当初の背景には、国民国家の領域性を問い直し、境界を超えたさまざまな「移動」の歴史を記述する、トランスナショナル・ヒストリーやグローバル・ヒストリーの進展がある。これらの分野が、インド洋や大西洋など、古来人とモノの往来が盛んで、近代以降には植民地化という決定的なグローバル化の契機に晒された海洋に広く着目する一方、旧ハプスブルク帝国領という、陸上の、相互浸透性が高い地域に注目したのが本研究である。

また、学術的背景に加えて、2015年のヨーロッパ難民危機を契機として、アルペン・アドリア地域を含む東ヨーロッパがEU域外移民に対して過敏に反応したことも、社会的な背景として指摘する必要がある。最大の移動路である地中海に面した南欧諸国に対して、東欧諸国における移民現象ははるかに小規模であったが、軍による時に暴力をとまなう移動の妨害や施設収容、壁の建設など、極めて深刻なものであった。

このような学術的・社会的背景から、流動性を抑制する大きな要素としての国境の存在、空間を囲い込み、その領域内の移動を管理する「境界化」の権力について歴史的な視点から再検討する研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究が対象とする地域のように境界変動の激しい地域での共同体のあり方に関しては、偶発的・流動的共同性(ロジャー・ブルーベイカー)や、「ネイション貴族に対する無関心」(ジャドソン、ザーラ)などの枠組みで、「ネイション」への文化的・心理的同一化を無意識の前提とする方法論的ナショナリズムを批判し、地域住民の戦略的実践(ブルデュ)を重視した。その一方で、そうであるからこそ一層、境界地域においてはネイションの理念に実態を一致させようとする「帰属の政治」(ブルーベイカー)が強く働く。本研究は、ローカルなレベル、トランスローカルなレベル、過去をめぐる記憶実践の三つの位相で、「帰属の政治」の働きと住民の行為主体性を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

上記の三つの位相に対しては、それぞれに異なった方法論を適用した。第一に、ローカルなレベルでの地域住民の実践に関しては、史料分析を中心とする歴史学的方法を通じて、地域内部の重層的・複合的な実践を明らかにした(古川、藤井、鈴木(珠)、秦泉寺、小田原)。トランスローカルなレベルにおける、ボーダーの「透過性」の促進と阻害の規制の検証にあたっては、ボーダースタディーズの手法が用いられた(鈴木(鉄)、秦泉寺)。当該地域において繰り返される境界変動が、どのような記憶をもたらし、以後のアイデンティティ形成にどのような影響を及ぼすかの批判的健闘については、とりわけ集合的記憶論の視点と方法が活用された(秦泉寺、小田原)。

4. 研究成果

研究は当該地域をイストリア半島(鈴木(鉄)、小田原)、アルプス(古川、藤井)、南テイロール(秦泉寺、鈴木(珠))の3つに区分して遂行された。

以下にまず研究代表者・各分担者の研究成果について、その後、まとめを簡潔に記す。

(1) 小田原(代表者)

小田原はイストリア半島における20世紀の境界変動、とくに第一次世界大戦に注目し、当該地域での地理的な境界変動が社会的境界をどのように構築したか、史料に基づいて検討した。その結果、当該地域での社会的境界の構築には初期の人種主義とジェンダーが大きく関わっていたことが明らかにされた。そして、その記憶は、第一次世界大戦という過去の経験それ自体だけでなく、「想起」をめぐって同時代的な政治に大きく影響されながら、できごとの以後に影響を及ぼし続けていること、またそうした「想起」の政治においては、ドメスティックおよびグローバルな政治と知的潮流が反映していることが明らかになった。(2022年にイタリア調査を実施)

(2) 鈴木(鉄)(分担者)

イタリア東部国境における調査研究により、ボーダー(border)は静的な事物というより、①壁やフェンスの建設による物質化、②国境画定・国境管理・身元確認の法制度の運用過程、③「われわれ/彼ら」「味方/敵」による他者化、の3つ可動的な線引きの過程(bordering)であるという知見を得た。またシェンゲン協定のように国境検問の機能が弱体化した後も、過去のボーダーが地域住民によって象徴的に再構築される(ファントム・ボーダー)ことがわかった。

(3) 古川 (分担者)

イタリア/オーストリア/スロヴェニア国境にあるケルンテン州の山岳地域における調査を通じて、第1次世界大戦から第2次世界大戦に至る時期に、ツーリズム (=登山) に従事した地域住民の国境やナショナリズムに対する意識の変化を新聞・雑誌分析から追究した。その結果、オーストリアの首都ウィーンで見られた政治的対立とは異なり、地域住民はまずもって地域的利益の確保を優先するために政治的にも協力し合い、第1次世界大戦後に引かれた国境を超えた連携関係をスロヴェニアやイタリアの同業者たちと維持し、さらにそれをウィーンにおける登山家協会も支持していたことが判明した。そこから、「境界化」権力とそれに抵抗する住民というパースペクティブは、国境を中心に、その両側の住民から構成される新しい「地域」や「国家」構想が生まれる可能性を開くことになった。(2019年3月にオーストリア、イタリア調査を実施)

(4) 藤井 (分担者)

現在のオーストリアとスロヴェニアの国境地域では、国境線の性質が概ね以下のように変化していった。すなわち「王朝的な権力原理による境界線(主に宗教が指標)」から「国民主義による境界(この地域では言語が指標)」、そして2度にわたる戦争の結果として「ナショナルリティーによる境界」となった。「国民主義による境界」は、言語的混住地域において物理的に引くことが難しいものであり、地域住民たちの頭の中に存在するのみだった。戦争の結果、物理的な境界線が引かれ、新たな境界線が古い文化的な風景を分割したが、人々の日常生活には、農業の営み、祭り、儀式、料理、など不変なものが残存した。(2018、2019年にオーストリア調査を実施)

(5) 秦泉寺 (分担者)

イタリア・オーストリア国境地域に関する調査研究により、第一次世界大戦、ファシズムおよびナチズムの支配を背景として、短期間に国境変更を繰り返し、個人に国籍選択が迫られた地域において、「ナショナルな無関心」が、異なる言語話者間の葛藤をある種緩和する役割を果たしたという知見を得た。またそれは、現代にあつては、複数の共同性の尊重する構えにつながることで、ボーダー(border)を多孔的な存在として立ちあわせさせることがわかった。

(6) 鈴木 (珠)

現在のイタリア北東部・オーストリア南西部にまたがる複数言語地域では、第一次世界大戦後の国境設定を契機として、言語集団が混在した地域住民を対象に、当時のイタリア及びドイツによる国民化政策が行われた。それらの政策は、住民間に存在した、言語や階層、特定地域に根差した職業集団といった既存の境界に対し、集団間の差異の強化や断絶、境界の再構築を促した。独伊間で進められた国内移民策や、国籍選択を通じた地域外移住策を進め、人口の移動を伴う自国語集団の数的強化策に対して、小規模ではあるが、国家が想定する国民とは異なる選択や、言語や国籍を逸脱した経済活動や労働移民が見られた。国策による差異化を超えたり、無力化したりするような動向と言える。他方、国境が変更されなかった第二次世界大戦後には、国内で言語集団間の差異が強調される傾向が見える。

上記より、国境の変動によって生じた地域住民社会における社会的な境界は、固定的ではなく、流動的、境界の内外から相互に変容することが判明した。(2019年にイタリア、オーストリア調査を実施)

まとめ

本研究では、20世紀初頭を中核とする前後の時期の境界化の運動の歴史的経緯の検証を通じて、当該地域において、

- ・ 境界の画定を構想するネイション化の運動が、市民社会のレベルで繰り返し生じたこと
- ・ 物理的には、国家による武力衝突を含む境界画定が行われること
- ・ こうした境界化は、静的なものではなく、壁やフェンスの建築(物質化)、国境管理等の制度化、境界の両側の他者化によって、繰り返し確認され強化される「bordering」の過程であること
- ・ 物理的境界が、想起の作用を通じて強化・再確認される一方、境界の不安定さもまた想起され、今日のトランスナショナルな環境において新たな意味を与えられること

等を明らかにすることができた。

本研究は、アルペン・アドリア地域の激しい境界変動と、それに対する住民の生存戦略を、「境界化」の権力という視角から検討することを目的とし、当初は近代国家形成と戦争によって実際に境界画定が生じた19世紀末から20世紀半ばを対象としていた。しかし、研究の進展にともなう、今日、当該地域において生じている、戦争の記憶をめぐる衝突や、それ自体はまったく新しい現象であるEU域外からの移民に対する政策や態度などのなかに歴史的な経験が反映されていることが明らかになった。これにより、境界化の権力を通じた境界の強化が今日の課題であることを確認することができたのは、学術的かつ社会的意義をもつ成果であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 鈴木鉄忠	4. 巻 23
2. 論文標題 「コロナ禍以降のフィールドワーカー「あちら側 / こちら側」をめぐるリフレクション」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中央大学社会科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 巻 61
2. 論文標題 「若者をとりにまく社会と未来をつくるキーパーソン」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『TRANSIT』	6. 最初と最後の頁 104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井欣子	4. 巻 23
2. 論文標題 「『移民のヨーロッパ史 ドイツ・オーストリア・スイス』書評会」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木珠美	4. 巻 23
2. 論文標題 「『移民のヨーロッパ史 ドイツ・オーストリア・スイス』書評会」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 51(9)
2. 論文標題 「裁判官を裁く 一九七〇年代イタリアにおけるフェミニズムの裁判実践」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 72-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 887
2. 論文標題 「ジェンダー・歴史・暴力 - - 「家事労働」を通して - - 」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川高子	4. 巻 44号
2. 論文標題 「コメント 財としての自然から資本としての自然へ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東欧史研究』	6. 最初と最後の頁 77-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 鉄忠	4. 巻 21
2. 論文標題 「小さな都市で「よく生きる」の挑戦 イタリア型スローシティ「チッタスロー」運動の理念と展開」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『共愛学園前橋国際大学論集』	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 鉄忠	4. 巻 25
2. 論文標題 「20世紀からの答えなき問いかけ：「例外状態」のフィールドワークにむけて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中央大学社会科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 3
2. 論文標題 【翻訳・解説】シルヴィア・フェデリーチ「未来はケアからやってくる」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『tattva』	6. 最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 24
2. 論文標題 「過去と現在の対話としての歴史学とジェンダー - - イタリア史を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『クアドランテ』	6. 最初と最後の頁 135-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 67
2. 論文標題 「21世紀の（ある）感情の共同体 - - ヤン・ブランパー『感情史の始まり』によせて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代史研究』	6. 最初と最後の頁 59-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 928
2. 論文標題 「「私たち」の歴史としてのジェンダー史」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史地理教育』	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 47
2. 論文標題 'A challenging conversation between feminists and people with disabilities: fight for the reproductive rights and fight against eugenics in postwar Japan'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 DEP - Deportate, esuli, profughe	6. 最初と最後の頁 169-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 75-7
2. 論文標題 「フェミニズム/再生産/コモンズ - シルヴィア・フェデリーチの議論によせて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福音と世界』	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 23
2. 論文標題 'Introduction: War, Violence and Gender in a Global Perspective: Memories and Representations in the Cases of the Algerian War, South Korean 'Comfort Women' and the Bosnian 'Mothers of Srebrenica''	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『クアドランテ』	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 1
2. 論文標題 「パンデミックの危機に立ち向かうイタリアの女性たち」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『f visions』	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川高子	4. 巻 66
2. 論文標題 【書評】水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム 戦争とナチズムの記憶をめぐって』(ミネルヴァ書房, 2020年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代史研究』	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木鉄忠	4. 巻 24
2. 論文標題 「“うごき”を捉えるフィールドワーク マリノフスキの「不可量部分」とラトゥールの「連関の社会学」を手がかりに」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中央大学社会科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 159-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木鉄忠実	4. 巻 23
2. 論文標題 「国境バリアに対する地域の応答 - - 欧州難民危機をめぐるとリエステとイストリアからの報告」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会科学研究所年報』	6. 最初と最後の頁 61-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木鉄忠	4. 巻 165
2. 論文標題 【翻訳】フランコ・パザーリア著「パザーリア講演録より「健康と労働」」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『福祉労働』	6. 最初と最後の頁 143-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川高子	4. 巻 98
2. 論文標題 「国民化される「内部の自然」：「赤いウィーン」市政下の自然の友による受容と抵抗」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京外国語大学論集』	6. 最初と最後の頁 13-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/93951	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川高子	4. 巻 99
2. 論文標題 「戦間期オーストリアにおける登山思想：労働者登山家協会自然の友のリベラル性」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京外国語大学論集』	6. 最初と最後の頁 16-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94291	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川高子	4. 巻 17
2. 論文標題 「20世紀初頭オーストリアにおける労働者たちの登山思想」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本山岳文化学会』	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 41-42
2. 論文標題 'Anti-Nuclear Movement and 'Motherhood' in Post-War Japan: A Feminist Perspective'	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 DEP: Deportate, esuli, profughe	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計27件 (うち招待講演 24件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 鈴木鉄忠
2. 発表標題 「イタリア・チッタスロ 運動と日本の地方都市への示唆 前橋・赤城チッタスローの移入プロセスを事例に」
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木鉄忠
2. 発表標題 「更新情報なきフィールド調査のリフレクション」
3. 学会等名 関東社会学会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「ハプスブルク<帝国>の歴史 ヨーロッパの深奥を探る」第11回「帝国は「民族の牢獄」だったのか ネイション再考」
3. 学会等名 かわさき市民アカデミー (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「極峰登山家F.カスバレークの生涯 登山と生、そして国民」
3. 学会等名 日本山岳文化学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Global History of Post-1968 in Japan: Feminist History in Comparison
3. 学会等名 BB Seminar (Leiden University College The Hague) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 金基鳳報告に対するコメント
3. 学会等名 第22回日韓・韓日歴史家会議「歴史研究の三分法をめぐって - 過去・現在・未来」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「イタリア植民地主義と「補償の政治」」
3. 学会等名 世界史セミナー(東京外国語大学海外事情研究所)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「ジェンダー格差の何が問題か 家事労働の視点から - 身近なところからグローバル社会まで」
3. 学会等名 2023夏季「高校生グローバルスクール」(西東京三大学連携・協働高大接続教育センター)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「『ナショナル・インディファレンス』論の課題：ジェンダーとネクロポリティクス」
3. 学会等名 『ナショナル・インディファレンス』を読む(早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「マルクス主義フェミニストがアフリカに出会うとき - シルヴィア・フェデリーチのナイジェリア経験」
3. 学会等名 ライヴズマター・インアフリカ:「グローバル・サウス」への協働に向けて(TUFS2023年度・研究A0「ライヴズ・マター・イン・アフリカ」プロジェクト)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「BLMと#MeToo」
3. 学会等名 連続セミナー「Black Lives Matter運動から学ぶこと」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「近代のかたちとジェンダー」
3. 学会等名 歴史学研究会大会合同部会「主権国家再考Part4 - - 国民国家の再点検」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「21世紀の感情の共同体？」
3. 学会等名 書評シンポジウム ヤン・ブランパー『感情史の始まり』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木珠美
2. 発表標題 リプライ
3. 学会等名 書評会：ホモ・ミгранツの心臓部 『移民のヨーロッパ史ードイツ・オーストリア・スイス』を読む(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「コメント 財としての自然から資本としての自然へ」
3. 学会等名 東欧史研究会大会「近代社会における身体の管理」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 'A difficulty in remembering the 'innocent' dead: mass killing at Fosse Ardeatine and Italy's post-war national identity'
3. 学会等名 EURAXESS ME!? (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「イタリアの戦後処理と歴史認識」
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター横浜教室「戦後処理と歴史認識」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 'On Hirota Masaki 'Structure of Discrimination in Modern Japan''
3. 学会等名 Modern Japan Workshop 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「記述と規範のあいだのナショナル・インディファレンス」
3. 学会等名 WINEオンライン・シンポジウム「ナショナル・インディファレンス(national indifference)論を再考する」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「コメント：ナショナル・インディファレンスと「国民の社会史」を結んで」
3. 学会等名 早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木鉄忠
2. 発表標題 「惑星社会のシステム混乱と人間の線引き イタリアからのメッセージ」
3. 学会等名 「人の資本主義」研究プロジェクト第11回カンファレンス「資本主義と疫病と生命」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「フレディ・ムーラー『緑の山』特集「マウンテン・トリロジー」トークショー」
3. 学会等名 「マウンテン・トリロジー」トークショー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「誰が景観を享受できるのか？戦間期オーストリアにおける山岳ツーリズムの発展と自然景観」
3. 学会等名 三鷹ネットワーク大学・東京外国語大学企画講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川高子
2. 発表標題 「もう一つの世紀末ウィーン 多「民族」における人々の暮らし」
3. 学会等名 府中市立図書館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 「 無垢 の死者を想起することの困難：フォッセ・アルデアティーネの虐殺と戦後イタリアのナショナル・アイデンティティ」
3. 学会等名 「 東アジアのメモリー・レジーム：再現と遂行」Sogang University, Korea（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 'Motherhood and the Anti-nuclear Movement in Post-War Japan'
3. 学会等名 ワークショップ「ジェンダーと批評：環太平洋における日本」California State University, Northridge（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 'A complicated relationship between the eugenics and the reproductive rights in Post-War Japan'
3. 学会等名 「生殖の（不）自由」Ca' Foscari University of Venice（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 鈴木 鉄忠	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』（担当159-184）	

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 357
3. 書名 (共訳) キャロル・ヘルストスキー 『イタリア料理の誕生』（担当207-251）	

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 357
3. 書名 キャロル・ヘルストスキー 『イタリア料理の誕生』解説（237-290）	

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 248
3. 書名 「南ティロルにおけるファシズム／レジスタンスの記憶 - 解放記念日と凱旋門の顕彰を手がかりとして」／赤川学・祐成保志編 『社会の解読力 歴史編』	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 357
3. 書名 (共訳) キャロル・ヘルストスキー 『イタリア料理の誕生』 (担当32-110)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 「コロニアリズム」山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子編 『論点・ジェンダー史学』 (担当86-87)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 「戦時性暴力」山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子編 『論点・ジェンダー史学』 (担当174-175)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「ジェンダー - - 規範から自己決定へいたる歴史」前川一郎編 『歴史学入門 だれにでもひらかれた14講』 (担当189-208)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 378
3. 書名 「『敵の子』を守る - 第一次世界大戦期イタリアにおける母なる感情」伊東剛史・森田直子編 『共感の共同体 感情史の世界をひらく』（担当241-273）	

1. 著者名 鈴木 鉄忠	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上毛新聞社	5. 総ページ数 75
3. 書名 『「見知らぬ私の地元」の探究：前橋・赤城スローシティのフィールドワーク』	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 381
3. 書名 「#BLMと#MeToo - インターセクショナリティと共生のコミュニティ」武内進一・中山智香子編 『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』（93-110）	

1. 著者名 鈴木珠美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 322
3. 書名 （翻訳）クラウス・J・バーデ編 『移民のヨーロッパ史ードイツ・オーストリア・スイス』（291-304）	

1. 著者名 藤井欣子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 322
3. 書名 (翻訳) クラウス・J・バーデ編 『移民のヨーロッパ史-ドイツ・オーストリア・スイス』 (269-289)	

1. 著者名 藤井欣子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 823
3. 書名 羽場久美子ほか編 『中欧・東欧文化事典』 (42-43)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 績文堂	5. 総ページ数 171
3. 書名 「パンデミックとジェンダー分業 - - 共同体の公正な存続のために」 歴史学研究会編 『コロナの時代の歴史学』 (担当129-137)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 246
3. 書名 【共訳】 (共訳) バーバラ・H・ローゼンワイン/ リッカルド・クリスティアーニ 『感情史とは何か』 (担当99-158)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 294
3. 書名 【翻訳】ゼバスティアン・コンラート『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』	

1. 著者名 古川高子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 708
3. 書名 「歴史を背負った山」『ドイツ文化事典』（担当128-129）	

1. 著者名 鈴木鉄忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 427
3. 書名 新原道信／宮野勝／鳴子博子編著『地球社会の複合的諸問題への応答の試み』（「非常事態」を名付け直す 国境地域における危機と“臨場・臨床の智”）(83-114)	

1. 著者名 鈴木鉄忠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 491
3. 書名 新原道信編『“臨場・臨床の智”の工房 国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』（「国境島嶼における平和裏の戦争状態 「同時代のこと」に回答する石垣島の反基地運動」）(75-154)	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 212
3. 書名 成田龍一・長谷川貴彦編『世界史 をいかに語るか グローバル時代の歴史像』（「誰のために歴史を書くのか - - ゼバスティアン・コンラート『グローバル・ヒストリーとはなにか?』」）(141-149)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 珠美 (Suzuki Tamami) (20641236)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada) (20726046)	東洋大学・国際学部・准教授 (32663)	
研究分担者	藤井 欣子 (Fujii Yoshiko) (30643168)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	秦泉寺 友紀 (Shinsenji Yuki) (60512192)	和洋女子大学・国際学部・教授 (32507)	
研究分担者	古川 高子 (Furukawa Takako) (90463926)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助教 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	Leiden University College the Hague			